

# 5. 見守り活動の指導

## ①見守り活動の指導

**規準 41a** 自主防犯活動に対する適切な指導・助言を行うことができる。

**41b** 防犯パトロールを企画・立案し、防犯の実践に取り組むことができる。

**ねらい**  41a ② 登下校時に合わせての立ち番や巡回活動の重要性について指導できる。

41b ① 登下校時に子どもを見守る活動を指導、要請できる。

### ①見守り活動・防犯活動について

子どもの安全の確保にあたり、見守り活動やパトロールを実施するためにはその活動の方法や内容を理解しておく必要があります。また、活動のポイントや事例を理解することで、新しく活動に参加した人へのアドバイスや、活動の推進に役立てることができます。

### ②子どもの見守り活動

子どもの見守り活動とは、子どもの安全を確保するために、学校周辺や通学路、公園など、子どもが日常生活において行動する場所に立ち、周辺の子どもの見守る活動のことです。毎日、同じ場所、時間帯に活動を行うことで、あいさつを交わすなど、子どもたちとのコミュニケーションの機会が生まれます。また、いつもより元気がなかったり、体調が悪そうなど、心や体調の変化にも気がつくようになります。活動中に気になることがあれば、子どもに声をかけます。

#### 子ども見守り活動のポイント

- ・見守り活動は複数で行うことにより、広域をカバーできます。また、実施者の数に余裕がある場合には、見守りの人数が少ない箇所にも回ることも効果的です。
- ・活動を毎日続けることにより、子どもたちとコミュニケーションをとる機会も増え、早期の信頼関係の構築に繋がります。
- ・活動を行う際は、見守り活動を行っていることが周囲からわかるよう、ジャンパーやベスト、たすき等の着用をします。
- ・危険なことはせず、問題があった場合は警察に通報を行います。

### ③防犯パトロール

防犯パトロールとは、通学路や地域内を巡回し、地域住民への声かけや危険な場所の点検、通学路の安全点検などを行うことです。登下校時に合わせてパトロールを行う場合は、子どもたちが通る前に通学路に危険がないかチェックすることが有効です。

活動を行う際はジャンパー、ベスト、たすき等を着用することで、周囲への啓発の効果、地域への活動のアピールにつながります。また、連絡用の携帯電話、警笛または防犯ブザー、メモ帳など

の筆記用具を携帯します。携帯電話には、すぐに通報できるように最寄りの交番、小学校などの電話番号をあらかじめ登録しておきます。

#### ■実施事例：ウォーキングパトロール

実施者は、ジャンパーやたすき、腕章を身につけ、登下校の時間に合わせ、自宅から通学路をパトロールし、小学校まで歩きます。学校正門前等をゴール地点や集合地点として決めることで、活動の実施者同士、また学校理事者、指導部長など学校側との情報共有、コミュニケーションの場を設けることができます。

#### パトロールのポイント

パトロール実施者に孤独感や負担を与えないようにすることが大切です。徒歩でのパトロールを行う場合は、実施者同士、顔を合わせることができるよう集合場所を決め、情報を共有できるようにすることが大切です。

#### ④登下校の時間の把握

見守り活動や登下校時のパトロールを効率的に行うためには、登下校時刻を活動実施者へ周知していることが大切です。時間割の関係や学校行事によって、通常の登下校時刻と異なる場合は、便りやメールなどを使い、事前に学校から活動参加者に変更時刻を伝えておく必要があります。

#### ⑤登下校の時間

小学生の登校時刻は、全学年が共通で午前7時半～8時頃となっています。下校時刻は低学年が14時頃、高学年が15時半頃ですが、学校行事、クラブ等で変則的になる場合があります。

また、地域によって登下校の時刻が異なる場合があるため、自身の地域の小学校の登下校の時刻を把握しておくことが必要です。

#### ⑥登下校時の子どもの見守り活動やパトロールの重要性

子どもに対する声かけ事案は、登下校時に多く、特に下校時刻にあたる14時から放課後の遊びや、塾帰りにあたる18時頃に発生件数が多い傾向にあります。

このため、登下校の時刻に合わせて行う、通学路での見守り活動やパトロールは、子どもの安全確保に繋がると言えます。また、夕方には買い物や玄関前の掃除、犬の散歩をしながらの見守り活動を行うことで、犯罪の発生の多い時間帯に地域の目を増やすことができます。

## ② 様々な見守り活動

**規準 41b** 防犯パトロールを企画・立案し、防犯の実践に取り組むことができる。

**ねらい**：□□ 41b ② 自転車や自動車で巡回する活動を指導、要請できる。

□□ 41b ③ 犬の散歩、買い物を兼ねたパトロール活動を指導、要請できる。

### ● さまざまな見守り活動・防犯活動を提案・実施

見守りには、さまざまな活動方法があります。この活動は、成果がなかなか目に見えない活動であるため、マンネリ化や停滞に陥りやすいこともあります。参加への意識を高め、個々の負担が少ない活動を提案することが求められます。そのためには、地域の人々の生活時間に合わせた活動を提案し、協力を要請することが重要となります。登校時刻に合わせた犬の散歩、下校時刻に合わせた買い物、ウォーキングなど、「～しながら」のながらパトロール（ながら見守り）を推進し、活動への協力者を募ります。

#### ■ 実施例①：わんわんパトロール

ながらパトロールの一環として、犬の散歩をする際にたすきやユニフォームを身につける、または、犬に防犯用のベスト等を着せ、パトロールを行います。

散歩をする際は危険箇所を点検する、子どもたちの安全を見守る等、防犯の視点を取り入れながら行います。ペットの散歩という日常の生活の中で行える活動ということもあり、防犯に興味のない人でも比較的を受け入れやすい活動であるといえます。

#### ポイント

- ・町内会、小学校、校区等にボランティア団体の結成を報告。参加者の増員を図ります。
- ・腕章やたすき、ゼッケンなど、犬が身につけることができる防犯グッズの整備。地域により異なりますが、腕章やたすきなど、自主防犯団体へ無償貸与される場合があります。また、犬に装着できなくとも、飼い主が腕章などをつければ防犯効果は同じです。
- ・参加者が増えてきたら、全メンバーが同時に行う「わんわんパトロール」などを企画し、地域へのアピール、新規参加者の拡大を促進します。

#### ■ 実施例②：自動車・自転車によるパトロール

自動車や自転車でのパトロールは通勤や買い物のついでに行う、ながらパトロールとして、推進している地域が多くあります。また、防犯パトロールで取り入れた場合も、徒歩に比べ、範囲をさらに広げることができるというメリットがあります。

活動を推進する際には地域で共通の「防犯パトロール実施中」と書いたステッカーを作成します。

自転車でパトロールを行う場合は「防犯パトロールを実施中」ということが、児童生徒、そしてその地域にいる人々にもわかるよう、前のカゴにステッカーを掲示したり、ジャンパーを着用します。

自動車の場合は、マグネットタイプのステッカーを車体の側面などの見える所に掲示し、パト

ロールを実施していることを知らせることが大切です。また、「パトロール実施中」とプリントしたものをフロントガラスやリアウィンドウの内部から掲示します。

また、自転車や自動車に取り付けたマグネットやステッカー等が走行中にはがれることがないように、事前に確認をします。

なお、自動車によるパトロールは、警察本部長の承認を受けた青色回転灯装備車両によるパトロールとは異なり、申請等の必要はありませんが、悪用されないことがないように、実施者数や配布した掲示用ステッカーの枚数などを把握しておきます。



▲登下校に合わせたワンワンパトロール  
(北海道苫小牧市立拓勇小学校)



▲自動車に貼るマグネットのステッカー  
(北海道白老郡白老町)



▲手作りの犬用パトロールグッズ  
(熊本県オバパト隊)



 **ビデオ教材** (ビデオ→見守り活動の指導)

ビデオを見て、見守り活動の指導のポイントについてまとめてみましょう。

---

---